



奥出雲

2

No.71



受け継がれる技と精神 たたらたたらの炎再び

～奥出雲地方を中心に、幕末まで国内の鉄需要を支えた日本古来の「たたら製鉄」～

日本で唯一、その伝統技術の保存伝承と、日本刀の原材料となる玉鋼を製造する「日刀保たたら」で、今年初めての三昼夜にわたる操業が、1月19日から2月5日までの間、3回に分けて行われました。

操業が行われた高殿内に作られた炉は、粘土製で、高さ1.2た、幅1た、長さ3た。炉には、ふいごから送られる風に応えるように、オレンジ色や青みがかった炎が高く立ち上り、国選定保存技術保持者で村下の木原明さんと村下代行の三上孝徳さんが、砂鉄を入れ、炎の様子を見たり感じ取りながら、木炭を入れる位置やタイミングを指示していました。

木原村下は「村下と養成員、全員が結束して技と精神を全力傾注し、良い鋼をつくるため、これから三昼夜、全員で挑戦していく」と意気込みを話されました。

1回の操業では、砂鉄10た、木炭12たが使用され、玉鋼を含む約3.5たの鉞けらが作られます。鋼造り工程で選別された約2.5たの玉鋼は、全国約250人の刀匠や文化財修復用として、全国各地に届けられます。

わたしたちの町

人 口	14,794人
男	7,137人
女	7,657人
世帯数	4,941世帯
2月1日現在	